

2018年7月26日

日米共同訓練及びオスプレイに関する談話

日本労働組合総連合会北海道連合会
事務局長 杉 山 元

昨年に引き続き本年も、米海兵隊と自衛隊との大規模な日米共同訓練「ノーザンバイパー」が行われ、その訓練にはオスプレイが参加し、補給拠点として陸上自衛隊帯広駐屯地内の十勝飛行場の活用を検討しているとの報道があった。

報道によれば、訓練は9月頃に2～4週間の期間で実施し、沖縄の普天間飛行場所所属のオスプレイ4～6機が参加、北海道大演習場と上富良野演習場の他、矢臼別演習場を訓練場所として使用する。そして、オスプレイの給油・整備を行う補給拠点として3演習場の中心に位置する帯広駐屯地の利用が検討されているという。

数千人規模の米海兵隊と自衛隊が、国境に接する北海道で、オスプレイが広域的に飛行して行う大がかりな日米共同訓練は、隣国ロシアを刺激し北方領土問題の解決という、私たちの悲願を大きく後退させる。

特に、オスプレイは昼夜を問わず時には低空で飛行し、その騒音は甚だしく、平穏な日常生活に多大な被害をもたらす。その上、昨年8月にもオーストラリア沖の墜落事故で3人が死亡する墜落事故を繰り返すなど、他の米海兵隊運用機より重大事故率が高い。ひとたび墜落事故が起これば道民の生命と財産が犠牲となる。

連合北海道は日米共同訓練について、北海道の平和と軍縮を進める立場から、さらに北方領土問題の解決を強く願う立場からも規模縮小を求めるとともに、墜落事故を繰り返し、騒音など環境にも負荷の大きい「オスプレイ」を運用し、ましてや住宅街や帯広の森運動公園に囲まれる帯広駐屯地を補給基地とすることを認めるわけにはいかない。強く強く反対するものである。

以 上